

ある宮司さんから聞いた話だが、「御札」というのは”気”の容器みたいなものらしい。

真言が書かれたり護摩を焚かれたり、もしくは祝詞を上げられたりすることで、ただの紙や板切れなどが人によい影響を与える「陽の気」を帯びる。だから、それを所持することで災いをもたらす「陰の気」を中和できるのだと。なるほど。

彼はまた、こうも言った。永遠に気を発し続ける御札なんてものではないのだと。それらを基本的には毎年交換しなければならぬのは、からっぽになってしまいうからだろうだ。

恐ろしいのは、ここからである。いちど気が寵もった御札というのはスポンジみたいにエネルギーを吸い込みやすくなっている。それが《正》だろうが《負》だろうが関係なく……。だから、あまり古いものをホツタラカシにしておいてはいけないというのだ。

御札そのものには陰陽を選別する意思や力はない。だから一歩間違えると悪い気をどんどん溜め、それを発散してしまう。奉納して処分してもらうのは、それらが危険だからに他ならない。また、効きめの強いものほど逆の効果も激しいから注意が必要なのだと。

「なんでも、そやとは限らんけどな」と宮司さんは笑うが、私

は充分に怖かった。

しばしば戸口に大量の御札や魔除けの類いが貼られた家を見ると、なんともいえず厭な感じがするのは気のせいではなかったのだ。あれは負のエネルギーを陰々滅々と放っていたのだ。

京都の御札で有名どころといえば、まず八坂神社の「蘇民将来之子孫也」だろうか。

蘇民将来は人の名前。牛頭天王が旅の途中に宿を求めたときにこれを篤くもてなした人物。それを喜んだ天王がその子孫ともども災いを逃れるであろうと約束したとされる故事から、その子孫であるという御札を玄関に掲げて厄除けとする習慣である。

これは平安時代以前からの信仰であり、近年も長岡京の遺跡から「蘇民将来之子孫也」と書かれた日本最古の木札が発見されている。古より京都人は連綿とこれを拠り所としてきた。

さてここ数年、蘇民将来を凌ぐ勢いで目立ちつつあるのがご存じ八幡明神社の五芒星ステッカーと、もうひとつ八幡不思議不動院の御札である。

とくに不思議不動院札は貼りっぱなしが基本なのか、ときおりスゴいことになっている。格子戸が不思議不思議不思議不思議不思議不思議とびっしり埋め尽くされているお宅を発見したときは、ちょっとウツとなった。御札というより呪縛に見えた。宮司さんがいうように期限切れ札に危険性があるとしたら、かなりのもんだろう。

心身を護ってくれるものなのだから、それらには感謝してほし

い。それは「陽の気」を充電することに繋^{つな}がる。——という宮司さんの言葉を書き添えておこう。

怖いこわい京都 新潮社 入江敦彦